

農産物の箱詰め作業=5日、雲南市大東町の山土寺本郷集会所



山王寺の幸、箱詰め

感謝込め、全国の支援会員へ

雲南

「日本の棚田百選」の1つ「山王寺の棚田」がある雲南市大東町山王寺で5日、棚田の幸の箱詰め作業が行われた。棚田の保全活動を支援する全国の会員に向け、お礼として山王寺の旬の農産物が発送される。

山王寺の棚田では、「山王寺本郷棚田実行委員会」(高島幹雄会長)が中心となり、棚田保全活動を行っている。その一環として、同実行委が、水十重ネツト島根(島根県土地改

良事業団体連合会)の協力を得て、8年前から「トラスト会員」を1口1万円で募集している。今年度は、県内外36人から44口の支援が集まった。

箱詰め作業は、4回に分けて実施。2回目のこの日は、地区内の山王寺本郷集会所で、委員会メンバー4人が集まり、トラスト会員のうち関東と西国の13人分の箱詰め作業を行った。

5時、古代米150俵のほか、この日と前日に準備したダイコン、ハクサイ、サツマイモ、シイタケ、カキ、ユズなど20種類くらいの季節の農産物。委員会メンバーは、餅や梅干し、コンニャクといった農産加工品を、丁寧に郵送用の箱に詰め、最後に感謝の気持ちを込めた送り状を添えていた。

同実行委事務局の高木健次さんは、「田舎のものばかりですが(会員から)感謝の手紙も届きます」と話してい

箱詰めされたのは、棚田で栽培されたコメ